

妊娠高血圧における母体眼動脈血流

Maternal Ophthalmic Artery Doppler Velocimetry in Normotensive Pregnancies
and Pregnancies Complicated by Hypertensive Disorders

島根医科大学産科婦人科学教室, 香川医科大学母子科学講座周産期学教室*

秦 幸吉, 秦 利之*, 宮崎康二

目 的

妊娠中の高血圧疾患合併妊婦において母体眼動脈血流計測を行い、その意義に関して検討した。

方 法

正常血圧非妊婦 (NN) 17例、妊娠7週から40週までの妊婦64例をnormotensive pregnant women (NP) 群29例、mild preeclampsia (MP) 群10例、severe preeclampsia (SP) 群6例、transient hypertension (TH) 群8例、chronic hypertension (CH) 群11例に分類し対象とした。なお、それぞれの高血圧疾患はAmerican college of Obstetricians and Gynecologistsの分類に従った。眼動脈血流速度波形計測は安静側臥位にてカラーおよびパルスドプラ法を用い、左右の眼動脈の記録を行った。得られた血流速度波形よりpulsatility index (PI) を算出し、左右の値を平均して解析に用いた。また、平均血圧 (MBP) も同時に測定した。

成 績

眼動脈PIに左右差は認められず、NP群では妊娠週数に伴う変化もなかった。PIはNN群 2.55 ± 0.27 、NP群 2.92 ± 0.59 、MP群 1.48 ± 0.28 、SP群 1.17 ± 0.08 、TH群 1.83 ± 0.26 、CH群 1.74 ± 0.45 で、SP群のPIが最も低値

であった ($p < 0.05$)。また、NP群のPIが最も高値であった ($p < 0.05$)。MP群のPIはTH群のそれより有意に低い値を示した

($p < 0.05$)。MP群とCH群、TH群とCH群の間にはそれぞれ有意差がなかった。MBPはNN群 83 ± 9 mmHg、NP群 79 ± 9 mmHg、MP群 112 ± 8 mmHg、SP群 130 ± 7 mmHg、TH群 108 ± 3 mmHg、CH群 119 ± 11 mmHgであった。MBPとPIとの間に、 $MBP = 138.18 - 14.203 \cdot$

$(PI)^2 + 2.4771 \cdot (PI)^3$ ($R^2 = 65.4\%$, $p < 0.0001$) と有意な負の相関が認められた。

結 論

妊娠中の高血圧妊婦では眼動脈の血管拡張、すなわち、orbital vascular vasodilatationあるいはhyperemiaの状態であることが昭かとなった。